

本資料の一部または全部を転載すること、重リンクすることは固くお断りします。

全成分表示名称	成分名	INCIコード	原料辞典説明
1 アセチルシステイン	N-アセチル-L-システイン	ACETYL CYSTEINE	HS-CH ₂ CH(NHCOCH ₃)-COOH(-163.2)という構造を持ち、L-システインと同様の還元剤ですが、酸化した場合の生成物も水溶性のため、L-システインなどに比べ安定性に優れます。値段も高価です。医薬品では、去痰剤として利用されています。
2 アルギニン	L-アルギニン	ARGININE	HN=C(NH ₂)-NH-CH ₂ CH ₂ CH ₂ -CH(NH ₂)COOH アルギニンはアミノ酸でありながら、アルカリ性が強く(アミノ酸中もっとも高い)、他のアルカリ剤と比べ安全性が高い(なめでも安全)ので、高級なアルカリ剤として使用されます。やけどなどの皮膚の再生に深(関与)しており、肝臓機能を高める働きがあります。また、化粧品においては、損傷毛の引っぱり強度の向上、刺激性の緩和などの効果が期待できます。化粧品で利用できるアルカリ剤はそう多くはありません。たとえばトリエタノールアミンは刺激性などでは非常に低いレベルにあるのですが、発ガン性への疑いからヨーロッパでは使用が避けられつつあります。発ガン性の高いニトリアミンなどに変化すると発ガン性のあるアミン類に関しては、ヨーロッパでは嫌悪感が強いようです。そんな中、高価ではあるもののアルギニンの使用は年々増えつつあります。
3 アルキル(C12-14)ジアミノエチルグリシンHCl	塩酸アルキルジアミノエチルグリシン		防腐・殺菌剤。タンパク質共存下でも効果が落ちないのが特徴です。
4 アロエベラ液汁未	アロエ液汁未(2)	ALOE BARBADENSIS GEL	太いアロエベラの葉肉の内側果肉部分の透明ゲル組織から取れたエキスです。本質は多糖類です。保湿効果に優れ、日焼け後のお手入れ化粧品に利用されます。アロエの葉の外側の部分にはアロインというアントラキノ系系の物質があり、キダチアロエなどは古(から)「医者いらず」と呼ばれ薬効のある物質ですが、アレルギーなども多く、家庭などで栽培しているアロエを気楽な気持ちで肌に適用するのは要注意です(発ガンの恐れさえあります)。どうしても使いたい場合は果肉部分だけにしましょう。
5 イソステアロイル加水分解コラーゲンAMPD	イソステアロイル加水分解コラーゲン・アミノメチルプロピルジオール塩	AMPD-ISOSTEAROYL HYDROLYZED COLLAGEN	コラーゲンPPTとイソステアリン酸の塩化合物です。皮膚や毛髪に対し、保護作用・膨潤作用・柔軟作用があります。起泡性・洗浄作用を持っており、脱脂力が少ないため、シャンプーやコンディショナーに配合すると、その感触をマイルドにします。
6 エタノールアミン	モノエタノールアミン	ETHANOLAMINE	「トリエタノールアミン」参照。アミノ酸と並んで、パーマ剤やヘアダイ剤の主要アルカリ剤です。
7 エチドロン酸	ヒドロキシエタンジホスホン酸	ETIDRONIC ACID	キレート剤(金属封鎖剤)。エチル酸塩(エチレンジアミン四酢酸塩)と同じように、化粧品に使用される水の中の金属を取り囲み、不活性化します。エチル酸塩は鉄分に対する効果が少なく、鉄分が問題となるパーマ剤にはよく使用されます。過酸化水素の安定剤としても効果的です。
8 オリーブ油	オリーブ油	OLIVE(OLEA EUROPAEA) OIL	食用ばかりでなく、昔から化粧品によく利用されるオイルです。オリーブ酸のトリグリセリドが主成分です。エモリエント感(油性感)さっぱりした油～ねっとりした油の感触を示します)は中程度です。
9 オレイルアルコール	オレイルアルコール	OLEYL ALCOHOL	ヒマワリや牛脂からとれる高級アルコールです。クリームや乳液に中程度のエモリエント感を与える液体のオイルで、乳化性や顔料分散性に優れているので、化粧品に多用されます。
10 オレス-50(牛脂)	ポリオキシエチレンオレイルエーテル	OLETH-50	ノニオン(非イオン)界面活性剤の一種で、クリームやトリートメントの乳化に利用されます。
11 グアールヒドロキシプロピルトリモニウムクロリド	塩化O-[2-ヒドロキシ-3-(トリメチルアンモニウム)プロピル]加水分解グアールガム		グアールガムは、インドやパキスタン地方で栽培される一年生の豆科植物グアールの葉からとれる水溶性の天然多糖類です。増粘性が高く、グアールガムを主成分としたグアールヒドロキシプロピルトリモニウムクロリドは、ヘアケア剤ではシャンプー・コンディショナーなどに配合され、増粘・乳化安定だけでなく毛髪のコンドィションング性を向上させます。また、スキンケアの分野でも、肌の柔軟・保湿効果があります。
12 グリセリン	濃グリセリン	GLYCERIN	グリセリンは潤滑剤として多くの化粧品に配合されます。石けん工業の副産物としてとれます。
13 グリチルリチン酸2K	グリチルリチン酸ジカリウム	DIPOTASSIUM GLYCYRRHIZATE	「カルベキソロン二ナトリウム」参照。甘草誘導体でもっとも汎用されるものです。炎症防止剤として目薬などに配合されているのをお見みです。
14 グリチルリチン酸ステアリル	グリチルリチン酸ステアリル	STEARYL GLYCYRRHETINATE	「カルベキソロン二ナトリウム」参照。甘草誘導体でカルベキソロンと並んで効果の高いもので、カルベキソロンが水溶性に利用されるのに対し、グリチルリチン酸ステアリルはクリームなどの油性製剤に利用されます。
15 グルタミン酸	L-グルタミン酸	GLUTAMIC ACID	もっとも有名なアミノ酸と言っても良いでしょう。サトウキビなどからとれます。グルタミン酸は酸性アミノ酸です。アミノ酸には、酸性・中性・塩基性(アルカリ性)アミノ酸がありますが、それはアルカリ性のアミノ基(-NH ₂)と酸性のカルボキシル基(-COOH)のバランスによります。グルタミン酸は1分子中にカルボキシル基が2個、アミノ基が1個あるため、酸性が強くなるわけです。中和剤・pH調整剤として利用されます。パーマ液などに配合することによって、毛髪の損傷を防止します。そのナトリウム塩は調味料としても多用されます。
16 コカミドプロピルベタイン	ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン液	COCAMIDOPROPYL BETAINE	シャンプー用の両性界面活性剤です。
17 ココアミノオキシド	ヤシ油アルキルジメチルアミノオキシド液	COCAMINE OXIDE	「ジヒドロキシエチルアラミンオキシド」と同じ。「アミノオキシド」と呼ばれるシャンプー用基材です。軽い泡が特徴です。
18 ココアホプロピオン酸Na	N-ヤシ油脂肪酸アル-N'-カルボキシエチル-N'-ヒドロキシエチルジエチルアミンナトリウム	SODIUM COCOAMPHOPROPIONATE	イミダゾリン型の両性界面活性剤で、低刺激性で柔らかな泡が特徴です。そのものはアルカリ性なので、pHを調整してシャンプーやボディーソープに利用されます。
19 ココイルグルタミン酸TEA	N-ヤシ油脂肪酸アル-N'-グルタミン酸トリエタノールアミン	TEA-COCOYL GLUTAMATE	アミノ酸系シャンプーのほとんどの主剤となっているアニオン界面活性剤です。「低刺激性」の代名詞と言われたほどで、マイルドな泡とともに現在でも高級シャンプーに多用されています。しかし、現在では高配合で使用したとき、カウミを感じる人も多く、他のアニオン界面活性剤や両性界面活性剤との併用が主流となりました。また、この原料はグルタミン酸と脂肪酸の化合物ですが、現在ではグルタミン酸ばかりでなく、グリシンなどの他のアミノ酸やPPTと脂肪酸を化学させた界面活性剤もつくられています。ココイルグルタミン酸TEAはグルタミン酸からつくられますが、グルタミン酸より分子量の小さいグリシンからつくられた界面活性剤はやはり泡なども軽く、どちらかというヘアシャンプーよりボディシャンプーに向いているといえます。
20 ココイル加水分解コラーゲンTEA	ヤシ油脂肪酸加水分解コラーゲントリエタノールアミン	TEA-COCOYL HYDROLYZED COLLAGEN	脂肪酸とコラーゲンPPTの塩化合物で、シャンプー基剤として利用されます。PPT部分がグルタミン酸になったものがアミノ酸系シャンプー基剤と呼ばれるもので、PPTになった分、分子量が多くなるため少し重い感触になりますが、シットリ感・毛髪との親和性は増します。
21 ココグリセリル硫酸Na	硬化ヤシ油脂肪酸グリセリル硫酸ナトリウム	SODIUM COCOMONOGLYCERIDE SULFATE	シャンプーに用いられるアニオン界面活性剤です。
22 コンフリーエキス	コンフリーエキス	COMFREY (SYMPHYTUM OFFICINALE) LEAF EXTRACT	ヒレハリソウ Symphytum officinale Linne(Boraginaceae)の葉から抽出されるエキスで、アアントインが主成分です。甘草誘導体と同じ(炎症防止効果、抗アレルギー効果)があり、シナキエキス、ボタニクスなど他の植物エキスと併用することにより相乗効果を生み、ヘアダイの主成分パラフェニルアミンによる接触皮膚炎や、アミノ酸系界面活性剤によるカウミなどに効果があることが確認されています。
23 サクシニルグリチルリチン酸2Na	カルベキソロン二ナトリウム	DISODIUM SUCCINOYL GLYCYRRHETINATE	漢方で珍重される甘草、乾した原料は噛むと本当に甘いことがわかります。甘草誘導体はその炎症抑制効果が高いことから、現在でも胃腸薬、目薬の主剤として利用されています。甘草をさす甘い味がすることがあるかと思いが、それは甘草誘導体のグリチルリチンの味です。甘草誘導体でもその効果が極めて高いのが、カルベキソロン二ナトリウム、グリチルリチン酸ステアリルで、もっとも多く利用されるグリチルリチン酸ジカリウムの5-10倍程度の効果があると言われます。カルベキソロン二ナトリウムは特にパーマの炎症防止に効果があるとされています。
24 ジオレイン酸PEG-120xメチルグルコース	ポリオキシエチレンジオレイン酸メチルグルコシド	PEG-120 METHYL GLUCOSE DIOLATE	シャンプーの増粘剤として利用されます。また、泡もち持続剤として使用されます。トウモロコシから得られるメチルグルコシドのエチレンオキシド付加物(これは石油からつくられます)にオレイン酸を付加重合してつくられます。
25 ジグリセリン	ジグリセリン	DIGLYCERIN	グリセリンが2分子結合したものです。グリセリンに比べ、あざりした感触が得られます。
26 シスチン	L-シスチン	CYSTINE	毛髪を構成するセラチンタンパクの約1割を占めるアミノ酸です。シスチン分子にはイオウ(S)とイオウ(S)がS-Sと言うように結合して(シスチン結合、またはジスルフィド結合と呼ばれる)いて、これが毛髪の内部では架橋の役割をしていて、肌と違って弾性がある原因となっています。パーマ剤の1液などでシスチンを還元すると、S-Sは-SH HS-というように分かれ、シスチン2分子になります。シスチンはシスチンと違い水にほとんど溶けません。
27 システアミンHCL			システアミンはシスチンと似ていますが、毛髪に対する作用はまるで違います。システアミンが中性付近でほとんどウェーブがかららないのに対し、システアミンはチオグリコール酸のパーマのpH8-9程度のウェーブが得られます。また、アルカリ性にする時オより強いウェーブが得られます。しかし、注意しなければならぬのは「傷みはかかるといわれる」ということです。中性でかかるといって傷まないわけではありません。また、システアミンはチオグリコール酸以上に皮膚に刺激があるともいわれています。また、におい、特にイヤな残臭があるという欠点も報告されています。2001年4月から使えるようになったばかりで、可能性は大きいものがありますが、まだまだ検討の余地があります。
28 システインHCL	塩酸DL-システイン		普通パーマに使われるシステイン類には、L-システイン(塩酸塩)、DL-システイン(塩酸塩)、アセチルシステインなどがあります。が、その中でDL-システインはL-システインから合成されます。アミノ酸のD-体とL-体は右手と左手の関係にあり、ほとんどの性質は一緒で、その等量混合物(ラセミ体)をDL-体といいますが、DL-システインはL-システインに比べ粉を吹いたり刺激を起こす度合いが少ないという利点があります。L-体から合成されるため、価格が高くなる欠点があります。
29 シソエキス	シソエキス	PERILLA OCYMOIDES EXTRACT	青シソを水で抽出したエキスで、アレルギー抑制効果が高いと言われています。
30 ジヒドロキシエチルアラミンオキシド	ジヒドロキシエチルアラミンオキシド液	DIHYDROXYETHYL LAURAMINE OXIDE	ノニオン界面活性剤ですが、発泡性があるためシャンプー用基剤として利用されます。泡立ちが重く、かつ重く泡が得られるのが特徴です。刺激性も少ないと言われています。
31 (ジヒドロキシメチルシリル)プロキシルヒドロキシプロピル加水分解コラーゲン	N-[2-ヒドロキシ-3-(ジヒドロキシメチルシリル)プロキシル]加水分解コラーゲン		コラーゲンPPTの末端にシリコンが付いたものです。コラーゲンPPTのしっとり感とシリコンのすべり感を併せ持っています。毛髪に塗布後、加温することによってシリコン部分が重合し、感触を向上させます。
32 ジメチコン	メチルポリシロキサン	DIMETHICONE	もっとも有名なシリコンです。高重合タイプのもので、ほとんどの溶剤に不溶性であることが、かえって毛髪への滑りを生みます。重合の度合いにより、水のようにサラサラのものから、ほとんど固体に近いものまでさまざまなタイプがあります。
33 ジメチコンポリオール、PPG-24グリセリス-24	ポリ(オキシエチレン・オキシプロピレン)メチルポリシロキサン共重合体	DIMETHICONE COPOLYOL、PPG-24-GLYCERIN-24	シリコンの一種で、ポリエーテル変性シリコンとも呼ばれます。製品の滑りを良くします。水に溶けやすいので、シャンプーの指通りを良くするためにも使用されます。
34 シラカバエキス	シラカバエキス	BIRCH (BETULA ALBA) EXTRACT	パーチキスとも呼ばれ、植物エキスとして有名です。抗炎症作用、収斂作用があります。
35 スクワラン	スクワラン	SQUALANE	代表的な肌用のオイルです。深海ザメの肝油から精製されます。肌のなじみがよく、そのままオイルとしても、クリーム、乳液にも多用されます。また、毛髪とも相性がよく、トリートメント、コンディショナーにも利用されます。
36 ステアリルベタイン	ステアリルベタイン液	STEARYL BETAINE	ヘマトリメント、リンスに使用されるカチオン界面活性剤です。単独で使われることはあまりなく、他のカチオン界面活性剤と併用して、トリートメント、リンス独特のぬめり感をつくりだします。
37 ステアルトリモニウムクロリド	塩化ステアルトリモニウム	STEARTRIMONIUM CHLORIDE	化粧品の規格で、「塩化ステアルトリモニウム」と呼ばれるカチオン界面活性剤です。
38 ステアロキシメチルポリシロキサン	ステアロキシメチルポリシロキサン		「シリコン」と「シリコーン」は混同されがちですが異なるものです。「シリコン」はシリコンの原料となる金属ケイ素の結晶(単結晶・多結晶)をいいます。金属ケイ素は火打ち石として使用されてきたケイ石から取られます。「シリコーン」とは、そのケイ素の化合物の中でも、シロキサン結合-Si-O-を持った高分子化合物原料の総称です。化粧品用途のもの、さまざまな工業用途で使用されています。十数年ほど前、シリコーンを使ったヘアケア製品が大ヒットしましたが、シリコーンはその独特の滑性を髪をサラサラにし、髪どうしあはれは、注意しなればならないのが、シリコーンによって得られる「すべり」ツヤ、が自分の髪本来のものだと錯覚してしまうことです。また、シリコーンは自然界で酸素の次に多いケイ素の化合物で、人体に対し極めて不活性。すなわち安全な原料と言われています。しかし同じように人体に極めて安全と言われていたフロンがオゾン層を破壊することが判明してから、シリコーンに対しても疑念を懐く人が増えつつあることも事実です。
39 セタノール	セタノール	CETYL ALCOHOL	白色・固形の油脂です。乳化しやすく独特の粘りがあるため、多くのクリームや乳液に配合されています。よくクリームなどで配合されているステアリルアルコールやセトステアリルアルコールはセタノールと兄弟のようなもので、その組成中に炭素が14個並んだ分子が多いものをセタノール、18個並んだ分子が多いものをステアリルアルコール、ほぼ同量のものをセトステアリルアルコールと呼んでいます。昔はマッコウクジラからとられていましたが、現在は牛脂・ヤシ油・オレインラップから(魚)などがつくられます。
40 セトリモニウムクロリド	塩化セトリモニウム	CETRIMONIUM CHLORIDE	化粧品の規格で、「塩化セトリモニウム」と呼ばれるカチオン界面活性剤です。
41 センブリエキス	センブリエキス	SWERTIA JAPONICA EXTRACT	お湯の中で干振って、主成分がスウェリアリンと呼ばれるこの植物エキスと、その皮膜形成作用から枝毛を修復する作用があることが確認されています。
42 チャ乾留液	チャ乾留液		チャエキス(1)よりさらに強い消臭作用を持ち、デオドラント化粧品や生ごみなどの消臭剤として利用されます。
43 デヒドロ酢酸Na	デヒドロ酢酸ナトリウム	SODIUM DEHYDROACETATE	防腐剤として食品や化粧品に利用されます。
44 トサカエキス	トサカ抽出液	COCKSCOMB EXTRACT	トサカエキスの主成分のヒアルロン酸は保湿力が高いばかりでなく、皮膚や髪に塗布した後は、スベスベ感が持続するため、多くの美容液、ヘアケア剤などに利用されています。
45 トレハロース	トレハロース	TREHALOSE	復活草と呼ばれるSelaginella Lepidophylla(イワバ(一種)などは50年以上乾燥環境下に置かれても、水を与えるとにより僅かな時間で活発に成長し始め、また完全に乾燥していると思われたクマシが水を飲むことにより活発に動き回ります。これらの生物に共通していることは、生体内に高濃度のトレハロースが存在することです。乾や極低温などの外的環境よりその生体を保護しているのではないかと考えられています。トレハロースはβ-D-グルコース(ブドウ糖)が2個つながった構造をしています。トレハロースの研究は年々進み、現在ではその細胞膜保護作用、タンパク質の変性抑制作用などが確認されており、開発メーカーの林原株式会社は「トレハロース」を「生命の糖」と呼んでいます。
46 ヒドロキシエチルセルロース	ヒドロキシエチルセルロース	HYDROXYETHYLCELLULOSE	HEC(ヘック)と化粧品技術者の間で呼ばれるヒドロキシエチルセルロースは、頭髪用化粧品や肌用化粧品で増粘剤として使用されます。
47 ヒドロキシプロピルキトサン	ヒドロキシプロピルキトサン液	HYDROXYPROPYL CHITOSAN	カニの甲羅などからとれるキトサン誘導体で、毛髪用化粧品に配合したとき、その皮膜形成作用から枝毛を修復する作用があることが確認されています。
48 ヒドロキシプロピルトリモニウム加水分解セラチン	塩化N-[2-ヒドロキシ-3-(トリメチルアンモニウム)プロピル]加水分解セラチン	HYDROXYPROPYLTRIMONIUM HYDROLYZED KERATIN	セラチンPPTの4級カチオン化したものです。一般的なセラチンPPTに比べ、毛髪への吸着性、吸着性に優れています。
49 ヒマシ油	ヒマシ油	CASTOR (RICINUS COMMUNIS) OIL	頭髪用クリームなどに配合すると、ネトリリした油性感を付与します。アイロンなどの熱に焼けにくいので、アイパー用の保護クリームなどに利用されます。
50 プラセンタエキス	プラセンタエキス(3)	PLACENTAL PROTEIN	胎盤工エキス、更年期障害の女性のたけに、ヒト胎盤をミンチ状にし、糖の下に埋め込む治療が行われており、その副作用で肌がかゆいことになることが多く注目されました。整肌効果だけでなく、美白作用も強く、昨日まで美容液の主成分としても使われていました。数年前にヒトの胎盤が化粧品では禁止され、ウシの胎盤が使われるようになりました。しかし、狂牛病の問題から、昨年12月12日の厚生省の通達でウシの胎盤も使えなくなり、現在は羊の胎盤が原料として使用されるようになりました。しかし、素性に詳しい人の話では、いずれ胎盤工エキスは化粧品では使えなくなるのではないかと話しています。
51 ベタイン	トリメチルグリシン	BETAINE	別名をトリメチルグリシンと言い、非常に保湿力の高い原料です。スキンケア製品に配合すると、しっとり保湿しながら、さらさらした感触で、グリセリンのようにベタつきません。合成されることもありますが、一般的に砂糖大根からつくられます。また、ベタインは胚芽・キノコ類・果実・エビ・ツカ・貝類・ヒトの肝臓にも含まれます。
52 ベヘニルアルコール	ベヘニルアルコール	BEHENYL ALCOHOL	ペニルアルコールは、主にナタネからとれるアルコールでセタノール、ステアリルアルコールと共に多くのスキンケアやヘアコンディショナーに配合されています。炭素数が20で、セタノールの16やステアリルアルコールの18と比べ分子量が大きいので、乳化物は固めに仕上がります。
53 ベントリモニウムクロリド	塩化ベントリモニウム	BEHENTRIMONIUM CHLORIDE	リンス、トリートメントの主成分であるカチオン界面活性剤の一種です。一般的カチオン界面活性剤は、脂肪酸トリメチルカチオン(窒素の周りに塩素が3個結合した形をしています)ですが、ベントリモニウムクロリドは化粧品の規格では塩化ベントリモニウムクロリドと呼ばれる、脂肪酸部分がベヘニルアルコールとなっています。
54 ヘマチン(申請中)	ヘマチン液(規格確認)	HEMATIN	ブタの赤血球から取れるヘマチンです。毛髪の損傷を修復する作用、パーマ臭の除去、育毛などのさまざまな効果があります。2001年度以前は、ウシの血液からつくられていま

		中)			したが、狂牛病の問題から製造できなくなり、ブタの血液からつくられるようになりました。
55	ベンザルコニウムクロリド	塩化ベンザルコニウム液	BENZALKONIUM CHLORIDE		化粧品規格で、「塩化ベンザルコニウム」と呼ばれるカチオン界面活性剤です。他のカチオン界面活性剤に比べ、殺菌力が強いので、殺菌剤として利用されます。
56	ホホバ油	ホホバ油	JOJOBA (BUXUS CHINENSIS) OIL		灌木のホホバからとれるオイルです。サラツとした感触で、頭皮に吸収されやすく、皮膚に柔軟性を与え、皮脂の過剰分泌を抑える作用があるため、フケ防止にもなると言われています。
57	ポリアスパラギン酸Na	ポリアスパラギン酸ナトリウム	SODIUM POLYASPARTATE		アスパラギン酸からなるアニオン性高分子湿潤剤です。キューティクルを保護する性質があり、枝毛・切れ毛を防止します。また、肌なじみが良く、肌用化粧水などに配合すると、べたつかず、シットリ、すべすべした感触が得られます。
58	ポリクオタニウム-10	塩化O-[2-ヒドロキシ-3-(トリメチルアンモニオ)プロピル]ヒドロキシエチルセルロース	POLYQUATERNIUM-10		一般にカチオン化セルロースと呼ばれるもので、シャンプーに配合し、すすぎ時のヌメリ感を付与します。
59	ポリクオタニウム-11	ビニルピロリドン・NN-ジメチルアミノエチルメタクリル酸共重合体ジエチル硫酸塩	POLYQUATERNIUM-11		毛髪化粧品に配合し、毛髪に塗布すると薄い乾いた皮膜をつくり、ツヤを与えます。またシャンプーにも配合され、独特のヌメリを与えます。
60	ポリクオタニウム-16		POLYQUATERNIUM-16		ビニルイミダゾニウムメチキソクロライド(QVI)とビニルピロリドン(VP)の共重合体の水溶液。カチオン性ポリマーでヘアケア・スキンケアのコンディショニング剤。
61	ポリソルベート20		POLYSORBATE 20		もっとも古典的なアニオン界面活性剤で、「ツイーン80」と呼ばれてきました。「ツイーン」とか「スパン」と言うのはアメリカの界面活性剤メーカーであるアトラス社の商標です。今から50年前にアトラス社の技術者がツイーン、スパンによる乳化実験の中で、アニオン界面活性剤の分子中のエチレンオキシドと油性部分とのバランスによって、可溶性力、乳化力が異なることから「HLB」(水溶性/油性のバランス)という概念を生み出しました。
62	ポリソルベート80	モノオレイン酸ポリオキシエチルソルビタン(20E.O.)	POLYSORBATE 80		昔から「スパン80」と呼ばれ、「ツイーン80」と並んでアニオン界面活性剤として古典的なものです。香料は油性成分の可溶化剤、乳化剤として利用されます。
63	マカデミアナッツ油	マカデミアナッツ油	MACADAMIA TERNIFOLIA NUT OIL		ミソ油に似た、頭皮化粧品に配合したときに非常に感触の良いオイルです。主成分はパルミトレイン酸です。
64	ミネラルオイル	流動パラフィン	MINERAL OIL		化粧品規格では「流動パラフィン」と呼ばれています。いわゆる「鉱物油」です。昔は精製技術が未熟だったため、毒性の強い不純物が含まれることがありました。しかし、今では発がん性のある不純物はほぼ完全に除去されているため、植物油などに比べても、もっとも安全性の高いオイルと言っても過言ではないでしょう。
65	ミスチン酸イソプロピル	ミスチン酸イソプロピル	ISOPROPYL MYRISTATE		「IPM」の略称と呼ばれるオイルです。サッパリした油性感で、クリームやトリートメントに配合すると、ノビ・スベリを良くします。
66	ミンク油	ミンク油	MINK OIL		毛髪用として非常に感触の良いオイルですが、動物愛護の面から敬遠されることもあり、代替品としてマカデミアナッツ油が利用されることもあります。
67	(メタクリロイルオキシエチルカルボキシル酸アルキル)コポリマー	N-メタクリロイルオキシエチルN,N-ジメチルアミノ-N-メチルカルボキシル酸アルキル共重合体	名称不明		ヘアセット剤に使用される高分子化合物です。セット力はそれほど強くありませんが、粉ふきが少ないので、様々なミストなどに利用されます。
68	メチルパラベン	パラオキシ安息香酸エステル	METHYLPARABEN		もっとも化粧品で一般的に使用される防腐剤。パラベンは「パラオキシ安息香酸エステル」の総称で、メチルパラベン、プロピルパラベン、ブチルパラベンなどがあり、メチルパラベンが一番水溶性が高く、プロピル、ブチルの順に油性性になってきます。パラベンは数種類を複合することでその効果が高まります。最近プロピルパラベンに環境ホルモン様作用があるのではないかと言説が報じられました。
69	モモ葉エキス	モモ葉エキス	PEACH (PRUNUS PERSICA) LEAF EXTRACT		モモの葉のエキスは抗炎症作用があり、アトピー性皮膚炎に効果があるとされています。タンニンが主成分です。
70	ラウラミドDEA	ラウリン酸ジエタノールアミド	LAURAMIDE DEA		シャンプーの増粘剤、泡も右向剤として使用されます。
71	ラウリルアルコール	ラウリルアルコール	LAURYL ALCOHOL		パーマ液の乳剤(粘度を上げた)、毛髪に対する浸透性を向上させたり、白濁させたり、可溶化させたりするもの)に利用される。炭素数12(C12)のアルコールで、ヤシアルコールとも呼ばれます。
72	ラウリルベタイン	ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	LAURYL BETAINE		シャンプー用の両性界面活性剤です。昔からよく利用され、泡の感触が良いのが特徴です。
73	ラウリル硫酸Na	ラウリル硫酸ナトリウム	SODIUM LAURYL SULFATE		長(シャンプー用のアニオン界面活性剤の代表格として君臨してきましたが、泡の状態、洗浄力は良いのですが、目や肌への刺激が強く、配合量は年々減少しつつあります。しかし、染毛剤のデコロカラーやパーマ剤などで多用されるアニオン乳化などは現在ではなくなっている存在で、化粧品以外でもさまざまな用途に利用されています。
74	ラウルトリモニウムクロリド	塩化ラウルトリモニウム	LAURTRIMONIUM CHLORIDE		化粧品規格で、「塩化ラウルトリモニウム」と呼ばれるカチオン界面活性剤です。
75	ラウレス-23	ポリオキシエチレンラウリルエーテル	LAURETH-23		化粧品規格では「ポリオキシエチレンラウリルエーテル」と呼ばれるアニオン界面活性剤です。香料や油脂など油性成分の可溶化や乳化に使用されます。因みに「ポリオキシエチレン」とは、エチレンオキシド(オキシエチレン:CH2CH2O-)が何個もつながったものが分子中にあることを示し、「ラウレス-23」とは23個つながったエチレンオキシドが分子中にあることを示しています。
76	ラウレス-9	ポリオキシエチレンラウリルエーテル	LAURETH-9		ラウレス-23と同じ、アニオン界面活性剤で、オキシドが9個つながっています。このエチレンオキシドが界面活性剤の水溶性部分で、これが多くなるとその界面活性剤は水に溶けやすくなります。また、色々性質も異なっており、ラウレスの場合、エチレンオキシドが8-10個のものには、皮膚に対する弱い麻酔作用があると言われ、ヘアトリートメントなどに配合すると、カゴミを抑えると言われています。
77	ラクtoferrin(牛乳)	ラクtoferrin	LACTOFERRIN		牛乳由来の鉄結合性糖タンパク質です。そのアミノ酸末端にはステインが存在しています。免疫機能調節作用、抗菌作用、脂質過酸化抑制効果、美白作用などがあると言われます。ラクtoferrinは、ヒトの初乳には乳性タンパクの20-30%を占めるといわれ、免疫系が未発達で抵抗力のない乳児の感染予防機能を高める上で、重要な役割を果たします。
78	ラノリン	吸着精製ラノリン	LANOLIN		ラノリンは羊毛に付着した脂を精製したものです。昨年12月の厚生省の狂牛病に関連した流通(ウシ及び反芻動物の原料の使用規制)においてラノリンやケラチンPPTなど獣毛に閉じは除外されています。
79	ラベンダーエキス	ラベンダーエキス(1)	LAVENDER (LAVANDULA ANGUSTIFOLIA) EXTRACT		もっとも有名なハーブです。アロマテラピーは、フランスの科学者ガットソーセが実験中に負ったやけどをラベンダーの葉で治したことが始まりといわれています。やけどなどの創傷治癒促進作用、鎮静作用などがあると言われます。
80	リン酸2Na	リン酸2水素ナトリウム	DISODIUM PHOSPHATE		リン酸のアルカリ性の塩でpH調整剤として使用されます。
81	リン酸Na	リン酸1水素ナトリウム	SODIUM PHOSPHATE		リン酸の酸性の塩で、pH調整剤として使用されます。
82	レブリン酸	レブリン酸	LEVULINIC ACID		有機酸の一種で、作用が穏やかなので、酸リンスなどに使用されます。
83	亜硫酸Na	無水亜硫酸ナトリウム	SODIUM SULFITE		亜硫酸ナトリウムは還元力は弱いものの、アルカリ性でパーマ剤のように毛髪のシスチン結合を切る作用があるため、別名「リソチンパーマ」と呼ばれます。今までは化粧品用のセト剤として認可されていました。
84	加水分解ケラチン	加水分解ケラチン液	HYDROLYZED KERATIN		羊毛由来のケラチンタンパクを酸、アルカリ、酵素などで加水分解し、アミノ酸を数個-数十個にしたものです。人間の毛髪のアミノ酸組成と同じなので、そのPPTに比べなじみが良く、吸着性に優れます。また、分子中にシスチン結合(イオウSとイオウSの結合、-S-S-)、またの名をシスチン結合と言います)を持つため、パーマの工程で利用すると、毛髪のイオウ原子と再結合するため、損傷防止効果が高いと言われます。
85	加水分解コムギ	加水分解コムギ末			コムギタンパクを加水分解して得られる、植物由来のPPTです。動物由来原料を好まない人にお勧めの原料です。
86	加水分解コムギタンパク	加水分解コムギ蛋白液	HYDROLYZED WHEAT PROTEIN		小麦タンパクの加水分解液です。ダメージヘアの補修に優れます。
87	加水分解コラーゲン	加水分解コラーゲン液	HYDROLYZED COLLAGEN		PPT(ポリペプチド)は、タンパク質を酸やアルカリ・酵素などによって加水分解したもので、アミノ酸が数個-数十個結合したものです。普通、化学ではタンパク質のものをオリゴペプチドと呼びますが、日本では故大門一夫氏が毛髪の修復効果の強いオリゴペプチドを「ピー・ピー・ティー」と呼び始め、美容界全体に広がりました。加水分解コラーゲンはコラーゲン(ゼラチン)からつくられるPPTです。シャンプーやトリートメント・パーマやヘアケアに配合することによって、その刺激を低減することができはかりでなく、損傷したところを修復する作用があります。分子量が小さいもの(アミノ酸が10個以下程度)ほど保湿効果が高く、分子量が大きいほど毛髪に対しハリ出し効果があります。主原料はウシが圧倒的でしたが、昨年の狂牛病騒ぎで日本産のウシは使えなくなりましたが、現在アメリカやオーストラリア産のウシがブタ、あるいは魚から製造されています。絶対的な危険度評価はかなり難しいこととは思いますが、食べることができる国産のウシを化粧品に使用し、何かが安全というものを取り違えているように思われます。
88	加水分解シルク	加水分解シルク液	HYDROLYZED SILK		絹タンパクのPPTです。二通りの種類があって、繊維質フィロインを加水分解したもの、セメント質ゼリンを加水分解したものがああります。ゼリン由来のものは、皮膚形成作用があり、毛髪を保護し枝毛の進行を抑制する効果があるとともに、髪にハリ・コシを与え、摩擦を抑えます。
89	甘草エキス	カンゾウエキス	LICORICE (GLYCYRRHIZA GLABRA)EXTRACT		甘草(カンゾウ)は古くから漢方で使用されている薬草です。甘草エキスは、粗製の甘草原料でカラメル状の黒褐色のペーストです。日本薬局方にも収載されており、薬剤の甘味剤、着色剤、胃腸疾患剤、鎮咳痰剤に用いられます。
90	香料・グリセリン・アスコルビン酸・グルタミン酸Na	チャエキス(1)	FRAGRANCE(US);PARFUM(EU), GLYCERIN, ASCORBIC ACID, SODIUM GLUTAMIC ACID		緑茶から抽出された成分で、タンニン、アスコルビン酸を主成分として含みます。抗酸化作用、抗菌作用、消臭作用などがあります。精神を落ち着かせたりすることで知られるテアニンやカテキンは別な原料として化粧品でも利用されています。「チャエキス」は全成分表示では香料に分類されてしまうので、分かりにくい点があります。
91	臭素酸Na	臭素酸ナトリウム			過酸化水素と並んで、パーマ第2剤(酸化剤)として使われる代表的なものです。昨年の化粧品の規制緩和でメーカーの責任において化粧品に配合することが可能になりました。臭素酸塩は、過酸化水素に比べ健康毛に対してはそれほど痛みが大きいことはありません。しかし、ハイブリート毛に対する臭素酸塩の影響は非常に大きく、毛髪を取り返しのつかないほど痛めてしまうことがあるので要注意です。これは、過酸化水素H2O2が分子が小さく早く(効)ものの、出せる酸素が少いのに、臭素酸塩は反応は遅いものの、ひとたび酸化が始まるとNaBrO3酸素が何個もダメージ部分に作用してしまうためです。臭素酸塩は反応が速いので、臭素酸塩は飲んだら命に関わるほど毒性が強い危険物であることも認識しておく必要があります。
92	銅クロロフィリンNa	銅クロロフィリンナトリウム	CHLOROPHYLLIN COPPER COMPLEX		葉緑素のことで、経時変化に強い強い色をしているので、着色剤として利用されます。
93	乳酸	乳酸	LACTIC ACID		乳酸は毛髪や肌を柔らかくする効果があるため、リンスや化粧水に配合されます。乳酸も一時的に化粧品として大流行した「-ヒドロキシ酸」の一種です。
94	乳酸Na	乳酸ナトリウム液	SODIUM LACTATE		乳酸ナトリウムは保湿効果が高く、化粧水、乳液に利用されます。
95	尿素	尿素	UREA		尿素は毛髪を軟化させる作用があるため、水分やヘアアイロンに利用されます。肌にも塗布すると、水分を表面に引き寄せる作用があるため、乾性肌用のローションなどにも利用されます。
96	AMPD	2-アミノ-2-メチル-1,3-プロパンジオール	AMINOMETHYL PROPANEDIOL		アルカリ剤として使用されます。化粧品で利用できるアルカリ剤はそれほど多くはありません。油に溶けるもの、溶けないもの、アンモニアのように揮発性のあるものなどがあり、それぞれ得手不得手があります。AMPDは各種の樹脂などの相性が良く、ミスト剤などに利用されます。
97	BG	1,3ブチレンジグリコール	BUTYLENE GLYCOL		油性成分と水性成分の相溶性を高めるために用いられます。またわずかな防腐効果があります。
98	EDTA-2Na	エデト酸2ナトリウム	DISODIUM EDTA		エデト酸四ナトリウム二塩と同様のキレート剤で、酸性の化粧品に使用されます。キレート剤には他にヒドロキシエタノールホスホン酸などがあります。
99	EDTA-4Na	エデト酸4ナトリウム2水塩	TETRASODIUM EDTA		化粧品に使用される水は一般的に精製されており、ミネラル分は殆ど含まれませんが、容器や空気などが混入することがあり、この重金属などのミネラル分がケラチンの乳化を阻害したり、化粧水などを変色させたりするばかりでなく、製品中の原料と反応して有害物質を生成したりします。エデト酸類は「キレート剤」と呼ばれ、これらのミネラルを分子中に捕獲する作用があり、その作用を活性化します。エデト酸にはいくつもの種類があり、エデト酸四ナトリウム二水塩は原料規格などで使用されます。
100	PEG-30ラノリン	ポリオキシエチレンラノリン	PEG-30 LANOLIN		化粧品の原料規格で、「ポリオキシエチレンラノリン」と呼ばれるアニオン界面活性剤です。毛髪化粧品に配合すると、適度なエモリエント感が得られます。
101	PEG-3ヤシ脂肪酸アミドMEA硫酸Na	ポリオキシエチレンヤシ脂肪酸アミドMEA硫酸ナトリウム	SODIUM PEG-4 COCAMIDE SULFATE		シャンプーの原料となるアニオン界面活性剤です。構造は、昔から使われているポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸ナトリウムに非常に近いものがあります。製造メーカーによれば「現在知られているアニオン界面活性剤の中でもっとも低刺激のものです」と言っています。注意しなればならないのは、刺激性・生分解性というものは完成された試験法はまだ存在しないと言っています。さらに各社が別々の方法で試験する場合も多く、自社の原料を使ってもおおうとして、他社品より低刺激だと書いている場合も多いためです。ですから、シャンプーもトリートメントも安全だからといって、多量に使うのは考えものです。
102	PEG-75	ポリエチレンジグリコール4000	PEG-75		ポリエチレンジグリコールは、分子数数百のものから百万を超えるものまでさまざまなタイプが化粧品に利用されています。配合することによって、製品の滑りを良くしたり、粘度を上げたりします。
103	PEG-80水添ヒマシ油	ポリオキシエチレン効果ヒマシ油	PEG-80 HYDROGENATED CASTOR OIL		化粧品の規格では、「ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油」と呼ばれるアニオン界面活性剤です。エチレンオキシドが低いものは、アニオン界面活性剤の中でも、油性性が低いなど安全性が高いことから、ドリンク剤などの医薬品にも使用されます。
104	PG	プロピレンジグリコール	PROPYLENE GLYCOL		PGはプロピレンジグリコールの略です。1,3-ブチレンジグリコールと同じように水性成分と油性成分の相溶性を高めるために配合されます。
105	PPG-9ジグリセリル	ポリオキシプロピレンジグリセリルエーテル	PPG-9 DIGLYCERYL ETHER		化粧品の規格では、「ポリオキシプロピレンジグリセリルエーテル」と呼ばれるアニオン界面活性剤です。ラウレス-23やPEG-80水添ヒマシ油と異なり、エチレンオキシドではなく、プロピレンジグリセリル(酸化プロピレン:CH2CH2CH2O-)がグリセリン分子の数箇所につながっています。
106	PVP	ポリビニルピロリドン	PVP		化粧品の規格では、「ポリビニルピロリドン」と呼ばれ、水や有機溶媒に溶解します。主に頭皮用のセト剤に利用され、毛髪表面に透明で、光沢のある皮膜を形成します。
107	TEA	トリエタノールアミン	TRIETHANOLAMINE		アンモニアNH3の水素の一つがエタノール(アルコール)に代わったものがモ/エタノールアミン、二つが代わったものがジエタノールアミン、三つ置き換わったものがトリエタノールアミンと言います。どれもアルカリ剤ですが、もっとも作用が強いのがモ/エタノールアミンでパーマの第1剤やヘアアイロンに使われます。トリエタノールアミンは作用がもっとも弱く、アルカリ剤以外としては、セッケンや乳化に利用されます。トリエタノールアミンは、化粧品で利用できるアルカリ剤の中で、刺激だけ言えば非常に作用が穏やかですが、発汗物質であるトリエタノールアミンに変化しやすいとか、その自体に発汗のおそれがあるといわれ、ヨーロッパでは化粧品各社が使用を控えるようになりつつあります。現在の所、日本では規制されていませんが、今後どうなるかわからない状況です。また、本当に危険なのかどうかも確定していません。